

東京都立 多摩総合医療センター

遠い(?)北多摩北部から

東村山市医師会 会長 黒田 克也



「三多摩」もはや懐かしくもある響き。もう死語になりつつあります。昭和時代に23区と多摩地域の交通網や公共施設といった都市基盤整備の格差を呼んでいたように、ネガティブな使われ方をしていました。

東京都のうち区部と島嶼部を除いた市町村部を指します。都民の約3分の1の人口を占め、南多摩・西多摩そして東村山市の属している北多摩（貴センターのある府中市も）の3つをあわせて「三多摩」と言います。

その三多摩の北部に位置し、北を埼玉県所沢市と接しているのが東村山市です。貴センターからは遠いと思われるでしょうが、意外と近くJR武蔵野線で1本なのです。

国は地域完結型の医療体制を推進しようとしています。そうすると東村山市は北多摩北部医療圏ということになりますが、北多摩南部にある貴センターに受診をお願いしている症例が少なくありません。病状の変化や貴センター受診を強く希望される患者さんなどお願いする理由は様々です。

人口の高齢化に伴い、生活習慣病なかでも特に糖尿病に罹患する患者さんは増加しています。他市医師会と同様に東村山市でも糖尿病重症化予防事業に力を入れています。近年は糖尿病性腎臓病に対して取り組んでいます。数年前からは緑内障・糖尿病性網膜症といった失明の主たる原因となっている疾患に対しての検診（眼科検診）も行っております。

又、小児期生活習慣病予防健診として、小4・中1の肥満傾向にある児童を対象に採血を含めた健診を行い、適切な指導をすることにより将来生活習慣病に罹患しないようにつとめています。このような取り組みにより、多少なりとも成果をあげられており、継続していきたいと思っております。

その他、他市医師会と同様に在宅医療の推進・医療と介護の連携・地域包括ケアシステムの構築に向けての他職種連携・ICTの活用・防災対策などに取り組んでおります。地域包括ケアシステムの構築がさげばれて久しいですが、2次医療圏単位否それを超えての連携システムの構築も大切になってくると思っております。貴センターの属する府中市医師会に隣接する国分寺市医師会・国立市医師会は東村山市医師会と同じく北多摩医師会に属しております。

今後は医師会レベルで、可能な限り情報を共有し、親密になり、患者さんのために医療チームを構築すべく連携が大切になってくると思われまます。そのためにもまずは、貴センターとの連携をすすめていくことが地域住民の安心感につながると思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。



眼科のご紹介



眼科部長 大野 明子

近隣の医師会、医療機関の先生方には、日頃より大変お世話になっており、心から御礼申し上げます。現在眼科は、常勤2名(大野・井上)、東京医科歯科大学からのローテーター2名(久木元・今井)で行っております。原則16歳以下は隣接の小児総合医療センターと連携し、都立神経病院の山田医長が毎週火曜日に外来を担当し神経眼科専門外来を開設しております。

手術は白内障手術が最も多く昨年度816件、外来手術もしくは1泊2日、2泊3日の入院での手術が可能です。精神障害、認知症などさまざまな理由で局所麻酔下での白内障手術に協力得られない方には全身麻酔での手術も行っております。現在、予定手術は約3か月待ちとなっております。白内障手術は、通常2.4mmの切開で行っており、抗凝固薬の休薬は不要です。血糖コントロールは超高齢者を除きHbA1c8%未満を手術可と判断し、血糖コントロールが不良でも白内障手術が必要な場合は当院内内分泌内科に相談してからの手術予定となります。白内障について、斜視手術、硝子体手術、眼瞼下垂手術などを多く手掛けております。

眼科の先生方へ

多数のご紹介誠にありがとうございます。また術後早期からの返送をご高診いただき感謝しております。現在1名欠員もあり、なかなか予約が取れずご迷惑をおかけし心苦しいのですが、緊急性が高いとご判断の際にはぜひ眼科外来へご相談ください。また連携医の先生におかれましては「連携枠外」という予約枠もご用意しております。斜視や弱視の方は水曜日午後の専門外来を初診時からご利用ください。返信文書に不明な点があったり、ご希望の検査結果の添付がないときなどは遠慮なく眼科外来にお問い合わせください。

眼科以外の先生方へ

術前検査で発見された異常所見についてご相談することも多く、感謝申し上げます。眼科へのご紹介については、恐縮ですがなるべく近隣の眼科を介していただけると幸いです。事情があり直接ご紹介いただく場合、特に手術後は近隣眼科へ逆紹介させていただくのが原則であること、眼科では散瞳するのでご自分で運転して受診しないことなどをご指導いただけると大変ありがたいです。

勝手なことを申しましたが、今後もなにとぞ宜しくお願い申し上げます。

都立多摩総合医療センター 人事異動

【採用】令和元年9月1日付

循環器科医員

大塚 佳満

【採用】令和元年10月1日付

耳鼻咽喉科医員

東 咲波

整形外科医員

松谷 暁

【退職】令和元年8月31日付

循環器科医長

磯貝 俊明

【退職】令和元年9月30日付

耳鼻咽喉科医長

淵上 輝彦

呼吸器科医員

矢野 光一

整形外科医員

森田 友安

外科医員

東原 琢

【退職】令和元年10月31日付

呼吸器外科医員

中山 敬史



高齢者の脆弱性骨盤骨折

整形外科部長 伊賀 徹



【症例1】 87歳女性。2016年某日に転倒し、右股関節周囲部痛が出現したが、歩行は可能であった。単純X線にて右恥骨骨折と診断した。在宅療養としたが徐々に疼痛が悪化し、2週後に歩行不能となった。このときCTにて仙骨U字型骨折が判明した(図1)。緊急入院ののちリハビリ目的に転院した。4ヶ月後の当院再診時には、疼痛はないが手押し車歩行がかるうじて可能であった。

【症例2】 79歳女性。転倒し「左下腹部痛」を主訴に当院救急外来を受診した。疼痛が遷延するため2週間後に当科を初診し、単純X線にて左恥骨骨折と診断した。在宅療養にて軽快傾向だったが再転倒を契機に疼痛が悪化し、受傷6週後に歩行・起座困難となった。CTにて症例1と同様の仙骨U字型骨折が判明した。手術を行い(図2)、翌日に車椅子乗車、4日後より起立訓練を実施できた。

【症例3】 89歳男性。自転車で転倒し、右寛骨臼骨折を受傷。もとよりADL良好であり手術を希望された。術直後より起座を許可し、術後3週で起立訓練、6週で平行棒内歩行訓練を開始した。

【考察】 高齢者が転倒などによって鼠径部痛や臀部痛のため歩行困難となった場合、大腿骨近位部骨折が想起されるが、脆弱性骨盤骨折も鑑別に挙がる。この場合、単純X線での診断は必ずしも容易でなく、特に仙骨側の骨折についてはCTやMRIが必要とされる。骨盤輪の骨折はRommensらがtype I からIVに分類し、不安定性の高いⅢ、Ⅳについては手術が推奨されている(図4)。当院の調査でも、保存療法において受傷から車椅子乗車が可能となるまでの期間が1週間以上であったものはtype Ⅲ、Ⅳのみであった。症例1と2はtypeⅣであったが、当時は本分類の認識がなく、長期臥床を要する結果となった。

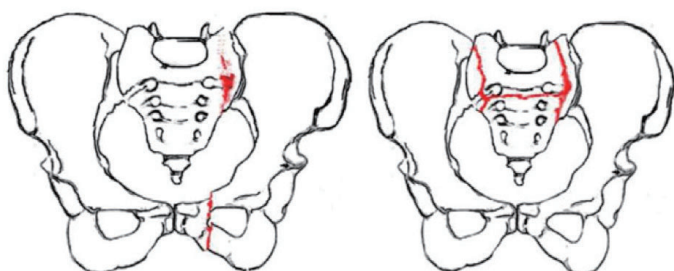
手術はできるだけ低侵襲とするため、経皮スクリュー固定などを活用している。ただし、大腿骨近位部骨折に対する手術ほどは劇的にADLが改善しない。適応は受傷前ADLや骨質なども考慮して慎重に決定している。なお、脆弱性骨盤骨折はtypeⅡまでの症例が多いため、保存療法を選択し、医療連携係を通じて早期に転送をご依頼していることが多い。

股関節の関節内骨折である寛骨臼骨折については、転位があれば手術をしないと関節機能が温存できないが、経皮的スクリューのみでは不十分なことが多く、観血的手術が必要である。侵襲は大きいですが、手術によって長期臥床を回避できる点は有益であり、歩行能の再獲得を目指す症例もある。適応があれば手術を行っている。

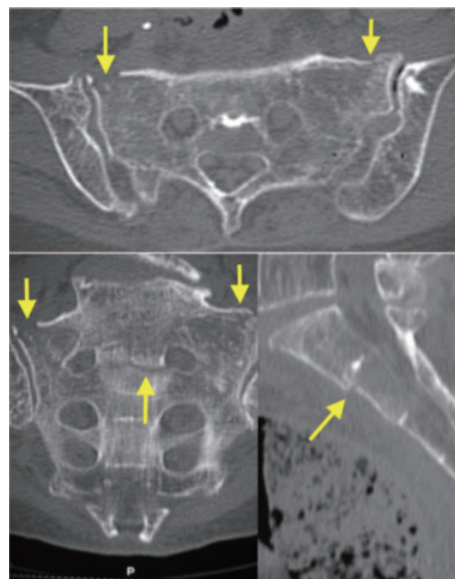
なお、最も重要なのは骨折の予防である。運動療法や骨粗鬆症治療のみならず、栄養指導、視覚聴覚障害や精神的な問題への介入なども有効性が指摘されている。

参考文献Rommens: Comprehensive Classification of fragility fractures of the pelvic ring. Injury 44 (2013) p1733

【図4】 Rommens分類。左: typeⅡ(恥坐骨+不完全な仙骨骨折、片側性)、右: typeⅣ(仙骨のU字ないしH字型骨折)



【図1】 症例1: 受傷2週後のCT画像。Rommens分類 typeⅣである。軸状断で両側仙骨骨折がある場合はU字ないしH字型骨折の可能性が高く、矢状断や前額断の確認を要する。



【図2】 症例2: 術後単純X線像。S1にiliosacral screwを挿入した。現在はできるだけ体側皮質を貫通させるtransiliac-transsacral screwを挿入するようにしている。本例の恥骨骨折は恥骨結合近傍にあったために経皮スクリュー固定の適応がなく、創外固定を用いた。



【図3】 症例3: 寛骨臼骨折に対する観血的手術



●● 公開CPCのご案内 ●●

顔の見える医療連携の更なる推進を図るため、これまで院内で行なっていたCPC（臨床病理検討会）に地域医療機関の先生方にもご参加いただきたく、ご案内させていただきます。是非ご参加くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

毎月第3木曜日 午後6時～午後7時 4階401会議室

（都合により開催日を変更する場合があります。）

●● 各種講習会・勉強会のご案内（医療従事者向け） ●●

医療連携臨床懇話会 都立多摩総合医療センター 4階401会議室

- 「内科医が知っておきたい鼻・副鼻腔疾患」 耳鼻咽喉科 中屋部長
日時：令和2年1月16日（木） 午後7時～午後8時

●● 各種講習会・勉強会のご案内（患者さん向け） ●●

糖尿病講習会 会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト 日時：毎月第3水曜日 午後2時～午後4時 ※参加無料、事前予約不要です

- 「糖尿病とインスリン」「インスリン製剤の管理」「年末年始の食生活」
日時：令和元年12月18日（水）
- 「糖尿病と脳梗塞」「尿検査」「脳梗塞予防の食事管理」
日時：令和2年1月15日（水）
- 「糖尿病と心臓」「糖尿病の運動療法」「心電図について」
日時：令和2年2月19日（水）
- 「糖尿病神経障害」「フットケアについて」「食事の自己評価方法」
日時：令和2年3月18日（水）

※詳細はホームページをご覧ください。

当院は原則として、**紹介予約制**です。外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは医療連携担当（内線2171）まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

連携医ホットライン：042-312-9119 月～土 9:00～20:00（祝日年末年始は除く）

連携医の先生方専用の当院医師への直通電話です。当日の緊急診療依頼にぜひご利用ください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状（診療情報提供書）をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111（代表）

